

石川県指定文化財 薄木版下絵詩歌(和漢朗詠集) 本阿弥光悦筆 寛永3年(1626)
—琳派 I より—



八代水野源六 金銀象嵌雪に鷹凶香炉
—石川の工芸 I 加賀象嵌ってなあに? より—

■ 近代の美術

前田育徳会尊經閣文庫分館

■ 琳派 I

第2展示室(古美術)

■ 石川の工芸 I 加賀象嵌ってなあに?

第5展示室(工芸)

■ 新収蔵品展 夏の優品選 I

第3・4・6展示室(絵画・彫刻)

- 6月の企画展示室
- 6月前半の展覧会
- 新収蔵品紹介
- キッズプログラム 年間予定
- 6月の行事予定
- アラカルトただいま展示中

第2展示室

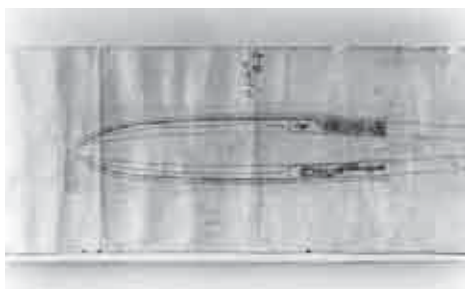
琳派 I

6月11日(木)～7月20日(月・祝) 会期中無休

本年は、本阿弥光悦が鷹峯の地に移ってから四〇〇年の節目となることから、「琳派四〇〇年」として、京都を中心に様々なイベントが開催されます。そこで、石川県立美術館でも二回にわたって琳派の特集を組むことにしました。最初の特集では、まず本阿弥光悦にスポットを当てたいと思います。

光悦は熱心な法華宗の信徒でした。法華宗の根本経典である『法華経』『方便品第二』には、子供が戯れに木片などで仏の像を描いたとしても、その人は慈悲ある人となり、幾千万の人々を救済すると説かれています。光悦ら琳派の芸術家たちが制作にあたった原点はこの教えにあるといえます。すなわち、子供の戯れの行為にこれほどの功德が

あるならば、大人が真剣に制作にあたれば、その功德は計り知れないのではないか。この信仰が、今日の人々も魅了してやまない洗練されたデザイン感覚に満ちた琳派様式を生み出したというわけです。今回展示する光悦の「薄木版下絵詩歌」(石川県指定文化財)には、『和漢朗詠集』の詩歌が書かれています。詩歌は仏を讃美する機縁でもあり、それを美しく書くこと、そのために意匠と装飾をつくり、た料紙を用いること。作品をじっくり鑑賞すると、こうした光悦の信仰が伝わってきます。さらに今回は、光悦一族の本業に関わる「刀絵図」(本阿弥光徳筆・重要美術品)も展示します。従来とひと味違う琳派の世界をどうぞご期待ください。



「刀絵図」本阿弥光徳筆

前田育徳会尊經閣文庫分館

近代の美術

6月11日(木)～7月20日(月・祝) 会期中無休

前田育徳会所蔵の近代美術コレクションを紹介する特集展示を開催します。前田家のコレクションといえ、江戸時代以前の作品を連想しがちですが、明治時代に住まいと生活様式の変化によって、新しい時代の作品も揃えられました。

明治三十五年(一九〇二)、藩政期に江戸上屋敷のあった本郷の地に、新たな住まいが建設されることになりました。ルネッサンス様式を取り入れた「西洋館」と、伝統的な建築様式による「日本館」の二館からなるもので、特に「西洋館」の建設にあたっては、そこに「行幸を賜りたい」という前田家の強い願いがありました。四十三年(一九一〇)、明治天皇の行幸が決まり慌ただしく準備が進みます。

行幸当日、はじめ西洋館で金沢の名品や茶菓、『金沢万葉』や刀が献上された後、川端玉章の『花鳥図(波上千鳥)』などの日本画を天覧。午後からは「日本館」の座敷にて前田家蔵品の天覧となりましたが、この「日本館」の襖絵が、今回展示する橋本雅邦による山水図襖です。また、別室には画家たちが控えており、『梅図(御臨幸記念)』がその場で描かれました。

やがて、大正十五年(一九二六)に本郷邸の解放が決定し、現在、前田育徳会が位置する駒場の地に新たな邸宅が設けられ、雅邦の襖絵は新しい「日本館」にも用いられました。本特集では、本郷・駒場、二つの「日本館」を飾った雅邦の襖絵をはじめとする近代日本画を紹介します。

橋本雅邦「四季山水図襖」

第3・4・6展示室 新収蔵品展 夏の優品選 I

6月11日(木)～7月20日(月・祝) 会期中無休

第4展示室において近現代絵画・彫刻部門の二十六年新収蔵品を一挙公開し、第3、第6展示室では春に続き、優品選パート2、「夏の優品選」をご覧いただきます。

昨年度の近現代絵画と彫刻の新収蔵作品は、洋画十九点、日本画五点、彫刻・造型八点、水彩・素描二点の計三十四点でした。洋画では高光一也の戦中期の作品『勤労出勤』と、その中の一人を描いた『女性像』など、まだこのような優品が埋もれていたのかと驚いたものです。芸術院会員として活躍されている藤森兼明氏からは、金沢美大在学中の光風会初出品作から近作まで、大変充実した作品を収蔵させていただきました。昨年度特集展示を

開いた法邑利博氏や、田浦隆透氏の幻想的な作品は、洋画部門に新たな魅力を加えるものです。ぜひご覧いただきたいと思えます。日本画では回顧展開催が契機となり、稲元実氏の日展出品作五点を収蔵することができました。いずれも作者の内面世界を描き出した魅力溢れる作品です。彫刻・造型では、共に金沢美大出身の横山豊介氏、加賀谷武氏から独特の世界観を持つ作品群を収蔵することができました。また鉛筆のみで制作を続ける木下晋氏が足の裏を描いた「表情」、大家高山辰雄の素描「白い椿」は、ストイックで美しい世界を展開しています。

夏の優品選では、季節感溢れる各ジャンルの優品をお楽しみください。



稲元実「武蔵野」

第5展示室

石川の工芸 I

加賀象嵌ってなあに？

6月11日(木)～7月20日(月・祝) 会期中無休

加賀象嵌は、その名に「加賀」を冠することが示すとおり、石川を代表する伝統工芸のひとつとして認められています。しかし実際、それがどのようなものなのかは、なかなか複雑です。

加賀象嵌の歴史は、二代藩主前田利長が、後藤家五代徳乗の三男琢乗を召し抱えたことに始まるといわれます。後藤家は室町時代より代々將軍家の刀装御用をつとめた家柄です。以降、寛文二年（一九二六）まで、京都と江戸の後藤家が、隔年で加賀へ下って指導にあたり、加賀の金工に大きな影響を与えました。表紙の「金銀象嵌雪に鷹図香炉」の作者である八代水野源六の家系は、後藤家の弟子筋です。白銀師と呼ばれ、加賀にあつて藩の御用を取りまとめる特別な地位にありました。

とはいえ加賀の金工は、単に後藤家を真似てい

るだけではありません。例えば、表面が滑らかな仕上がり（平象嵌）、重ねた象嵌（鎧象嵌）、断面が台形になるようにアリのたてた彫り込みなど、今日、加賀象嵌の特徴として挙げられるものは、江戸時代、主に鎧よろいに用いられて発展しました。こうした技法がどのように確立していったのかはまだ明らかではありませんが、職人たちが、さまざまに試行錯誤をしつつ醸成していったことでしょう。

加賀象嵌は近代に入ると大きな打撃を受けます。米沢弘安の死によって消滅の危機に瀕しますが、高橋介州らの作家たちにより、今なおその命脈を保っています。

今回は、そうした加賀象嵌の軌跡を、作品によって辿っていただきたいと思えます。



小市永政
「銀象嵌牡丹文鏡 銘加筋金沢住小市三良右門尉作」

六月の企画展示室

第7～9展示室(午後5時閉室)

第45回 日彫北陸展

6月12日(金)～16日(火) 会期中無休

日本彫刻会は、具象彫刻を中心に、造形芸術の向上に努めている国内では最大規模の彫刻公募団体です。本展は四月に上野東京都美術館で開催した第四十五回日彫展より芸術院会員をはじめ各種受賞作品と、会員から選抜された優秀作を基本作品とし、石川、富山の地元出品作を合わせ、約八十余点を展示します。是非ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

なお、身体障がい者手帳をお持ちの方と、付き添い二名を会場無料とし、手に触れながらみられる作品も展示します(手形マーク添付)。また、会期中の六月十四日(日)には、彫刻のワークショップ「家族で作ろう。みんなの笑顔」を開催します。日彫会会員が優しく指導しますので是非ご参加ください。

■入場料／一般：五〇〇円 高校・大学生：三〇〇円
小中学生：無料

■連絡先／金沢美術工芸大学内 石田陽介
電話：〇七六一二五六一三五六八

石川県水墨画協会は、平成元年度発足、同二年に第一回公募展を開催し今日に至っております。公募展は石川県内の水墨画会諸会派及び一般個人を統合する当協会が行う展示会です。これは、過去の公募展の実績に照らし承認された会員の研鑽の場であると同時に、広く県内より一般公募し、厳正な審査の上入選作を展示し、水墨画の普及発展に寄与することとしております。従って各会派主宰の作品を始め、会員並びに一般公募の意欲的な表現による、楽しいな協会展ならではの作品をご覧いただけると思います。

多くの方々のご来場をお待ちしております。

■入場料／無料

■連絡先／能美市高坂町八九九―二一五

事務局長 佐藤剛

電話：〇七六一二五五二九九

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

春の北陸二紀展は北陸支部会員が、第六十九回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。

世評を問い、あわせて立見榮男二紀会常務理事をはじめ委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

■入場料／無料

■後援／北國新聞社・テレビ金沢・北陸放送

■連絡先／金沢市泉野出町二一六―九 六反田英一
電話：〇七六一二四三一〇八八一

第8・9展示室

2015

春の北陸二紀展

6月26日(金)～30日(火) 会期中無休

第7～9展示室

第26回

石川県水墨画協会公募展

6月19日(金)～23日(火) 会期中無休

6月前半の展覧会

加賀前田家

百万石の名宝

— 尊經閣文庫の名品を中心に —

「加賀前田家 百万石の名宝」も、その会期は数日を残すのみとなりました。多くの皆様にご鑑賞いただいておりますが、会期中に展示替を行っておりますし、今後しばらくは、この規模の展覧会はおよそ不可能かと思っておりますので、この機会にぜひとももう一度ご来館いただきたいと思えます。現在展示中の国宝「古今集卷第十九残卷（高野切）」は五月二十四日から最終日までの展示という、今回最も展示期間が短い作品です。本作は、延暦五年（九〇五）に成立した最初の勅撰和歌集の『古今集』の写本の一つで、真言宗大本山の高野山金剛峯寺に伝来したところから「高野切」（伝紀貫之筆）と呼ばれる写本群の一部で、十一世紀半ば頃の筆写と推定されています。また重文「手鑑野辺のみどり」から「寸松庵色紙」・「高野切」（第一種）・「自家集切」（いずれも伝紀貫之筆）を、さらには国宝「古今集（清輔本）」を展示していますので、古今集の世界をお楽しみください。



国宝「古今集卷第十九残卷（高野切）」（部分）

大名の装い

【前田育徳会尊經閣文庫分館】

金沢の初夏を飾る「百万石まつり」。例年、その時期に開催する歴代藩主が使用した甲冑・陣羽織の展示です。企画展示の「加賀前田家 百万石の名宝」で、初代利家所用の金小札白糸素懸威胴丸具足が注目を集めていますが、ここ前田育徳会尊經閣文庫分館では六代吉徳から十四代慶寧が使用した甲冑や陣羽織をご覧いただけます。歴代藩主によって工夫が凝らされた具足には妙味があり、奇抜で斬新なデザインを施した陣羽織も見所です。



牡丹獅子文陣羽織
7代前田宗辰所用

優品選

【第2展示室】

企画展「加賀前田家 百万石の名宝」の関連展示として、館藏品、寄託品から特に加賀藩主前田家にゆかりのある優品を選んで展示しています。たとえば、かつて前田家が所蔵していた「古今集・清輔本」（寄託品、重文）と別系統の「古今集・清輔本」（前田育徳会所蔵、国宝）が、前田利常の収集品として企画展に展示されています。このように、名品の収集や名工の招聘など、前田家の文化政策のエッセンスにふれる絶好の機会を、是非お見逃しなく。



重文「古今集・清輔本」

春の優品選

【第5展示室】

工芸部門では、久しぶりにガラス作品を6点展示しています。製作年代や地域はさまざま。「白被カットエナメル金彩銀脚貝形器」は、十九世紀のポヘミアでつくられたものです。ガラスが熱いうちに、白色のガラスを貼り付け（白被）、冷えてからカットと金彩を施しています。二枚貝の筋に沿ってカットされた楕円形の窓は海中の泡のようにも見え、幻想的です。どんぐりをかたどった銀製の摘みは、手に取りやすいよう上を向いています。



「白被カットエナメル金彩銀脚貝形器」
19世紀

優品選

【第3・4・6展示室】

北陸新幹線金沢開業から二ヶ月以上が経ち、本県にとっては中央との繋がりが太くなる一方、地方としての独自性が求められるときにあるといえましょう。本展は、石川ゆかりの作家を中心に、その豊かな個性と創造性溢れる、日本画・洋画・彫刻の各作品をご覧いただくものです。はじめて当館にお越しいただきご鑑賞いただくの方々には目新しく、また既に当館にお馴染みの方々にとっても、改めて当県作家の活動を再認識いただける機会です。



西山英雄「火山」

平成27年度

新収蔵品紹介



壺・指頭絵「虎吼」 十代大樋長左衛門



「神代櫻挽曲造飾箱」 灰外達夫



「気」 稲元実



「アドレーション・サンタカタリーナ」
藤森兼明



「空の杜 花神の棲む」 法邑利博



「華生」 横山豊介

彫刻	彫塑	素描	素描	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	日本画	木竹	刀剣	金工	染織	漆工	漆工	陶磁	陶磁	陶磁	分類
空間生態・黄・ベルリン	華生	白い椿	表情	風景38	空の杜 花神の棲む	アドレーション・サンタカタリーナ	一人	勤労出勤	女性像(勤労出勤)	気	神代櫻挽曲造飾箱	太刀 庚戌年八月 加賀国住両山子正峯作之	氈鹿文鉄打出菓子器	モン・サン・ミッシェル	乾漆盛器「震」	漆皮花蝶文盤	黒茶盃銘汲古	鉛釉壺「兎の夢」	壺・指頭絵「虎吼」	作品名
他1点	他5点			他1点	他3点	他8点			他1点	他4点			他1点	他2点	他3点					
加賀谷武	横山豊介	高山辰雄	木下晋	田浦隆透	法邑利博	藤森兼明	鈴木博	高光一也	高光一也	稲元実	灰外達夫	隅谷正峯	米沢弘安	堀友三郎	寺西弥生	新村撰吉	十代大樋長左衛門	十代大樋長左衛門	十代大樋長左衛門	作者名
平成十二年	平成十八年	不明	平成七年	昭和四十八年	平成二十三年	平成二十一年	昭和三十年頃	昭和十八年頃	昭和十八年	平成九年	平成二十六年	昭和四十五年	昭和三年	平成二年	平成元年	昭和四十五年	平成二十五年	平成二十二年	平成二十一年	制作年
加賀谷武氏寄附	横山豊介氏寄附	安嶋 彌氏寄附	田中 昭氏寄附	栃堀麗奈氏寄附	法邑利博氏寄附	藤森兼明氏寄附	高橋 春氏寄附	高橋 春氏寄附	平井 聖氏寄附	稲元美恵氏寄附	(購入)	諸江賢二氏寄附	米澤信子氏寄附	堀 富子氏寄附	寺西弘忠氏寄附	諸江賢二氏寄附	(購入)	(購入)	(購入)	備考

収蔵品総計(平成27年3月31日 現在) 3296点

キッズ☆プログラム年間計画

平成二十七年 度 キッズ☆プログラム

申し込みなしで参加できる小学生親子対象の鑑賞講座です。各講座（八月八日（土）開催の「あなたも、アートde暑中見舞い」除く）、日曜日の十三時半開始、約一時間半の活動で当館コレクション展をはじめとした作品と楽しく出会うプログラムです。参加は無料、ご参加の方は観覧料も無料になります。

■第一回 企画展示「百万石の名宝・前田育徳会「大名の装い」
「よろい・かぶと大研究」
五月二十四日（日）

戦いの時に自分の身を守り、そして、武士にとって晴れ着であったよろい・かぶと。初代藩主前田利家所用の黄金のよろい・かぶとをはじめ、歴代のお殿様たちのよろい・かぶとを大研究します。

■第二回 特集展示「夏休み親子で楽しむ美術館
アートde暑中見舞い」
「あなたも、アートde暑中見舞い」
七月二十六日（日）
八月八日（土） 十八時半～十九時半

夏にちなんだ作品や暑い夏を楽しむ作品、また、涼しさをお届けする作品で石川県立美術館から、アートde暑中お見舞い申し上げます。お気に入りの作品を見つけたら、一言添えて今度はあなたからだれかさんに、「アートde暑中見舞い」はいかが？

夕方開催の八月八日は十九時半頃から本多の森公園でイベントもあります。お好きな日にお越し下さい。



■第三回 特集展示「千支の造形」
「千支の造形 書に挑戦！」
十二月二十日（日）

今年はひつじ年、来年はさる年。あなたは何年生まれ？千支を表した作品の鑑賞後は、千支の造形にあなたも参加してみます。来年の千支のさるや自分の千支などを気軽に書で書いてみませんか？

■第四回 特集展示「石川の工芸Ⅲ 食を彩る」
「工芸作品で“おいしそっ”」
二月二十八日（日）

食べ物をテーマに並んだ工芸作品の展示で、食べ物モチーフにした作品やお料理やお菓子を“おいしそっ”にみせる器を鑑賞します。また、食べ物を引き立たせる器のデザインにも取り組んでみましょう。



六月の行事予定

21日（日）	シリーズ北陸の工芸作家 石川の巨匠たち 輝影 人間国宝 中川衛 (25分)	■映像ギャラリー 午後1時30分 美術館ホール 入場無料	27日（土） 歴代加賀藩主の姿あれこれ 村上 尚子 学芸主査	■土曜講座 午後1時30分 美術館講義室 聴講無料
	日本美術史 江戸時代 江戸時代の絵画 (28分)			
20日（土）	加賀象嵌つてなあに？ 中澤菜見子 学芸員			

見透せぬ窓A

昭和63年(1988) 第56回独立展 独立美術協会賞 縦159.3×横191.5cm

前田 さなみ

昭和5年(1930)～平成27年(2015)



一九七〇年代末から始まる、ショーウィンドウを媒体に、ガラスを通して見える世界と映り込む世界とを混在させたシリーズ『見透せぬ窓』によって、作者は独自の世界を確立しました。なかでも独立展での最高賞、独立美術協会賞を受賞した本作は、シリーズ中のピークを示すものです。

巨大なガラスに映り込むゆがんだ街は、ビルの谷間に首都高速が黒い影をなし、ケース内の赤い壁紙とあいまって不気味な様相を呈しています。実際はトラックが走り、喧噪の渦なのでしようが、時の止まった無音の世界に思えます。その世界をショーウィンドウ内の着飾ったマネキン達が見下ろすのです。

現代社会の不安を表すかのような赤と青、黄、そして黒、見透せぬがゆえに窓の役割を失い、かわりに世相を映す鏡となった巨大なウィンドウ、そこに反映するゆがんだ社会。以後、繁栄とは裏腹の環境汚染や戦争に対する強い抗議を込めて、作者はより先鋭に社会性を打ち出した作品を描き続けたのでした。

作者は昭和五年東京都生まれ。戦時中父母の出身地七尾に疎開し、二十二年金沢美術工芸専門学校入学、二十七年卒業。高光一也・清水鍊徳に師事。同年第二十回独立美術協会展初入選、五十八・五十九年小林賞、六十三年独立賞受賞。平成元年独立美術協会会員推挙。女流画家協会へは三十二年初出品、以後四十四年〇氏賞、四十六年バラ賞受賞、五十三年女流画家協会委員。平成二十二年当館の主催で「見透せぬ窓 前田さなみ展」開催。二十七年四月逝去。

次回の展覧会

会期：
7月24日(金)～9月8日(火)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室	
花鳥の美		琳派Ⅱ	
第3展示室	第4展示室	第5展示室	第6展示室
夏の優品選Ⅱ	親子で楽しむ美術館 アートde暑中見舞い	石川の工芸Ⅱ	夏の優品選Ⅱ

ご利用案内

コレクション展観覧料
 一般 360円(290円)
 大学生 290円(230円)
 高校生以下 無料
 ※()内は団体料金
 毎月第1月曜日はコレクション展示室
 無料の日(6月は1日)

今月の開館時間
 午前9:30～午後6:00

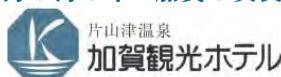
カフェ営業時間
 午前10:00～午後7:00 年中無休

6月の休館日は
8日(月)～10日(水)

広告

片山津温泉
 22種のお風呂で
 おくつろぎ下さい
<http://www.kagakankoh-hotel.co.jp/>

日本海の海の幸や加賀の美食なら



〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
 加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時～20時
Tel. 0761-74-1101

石川県立美術館だより
 第380号(毎月発行)
 2015年6月1日発行
 〒920-0963
 金沢市出羽町2番1号
 Tel: 076(231)7580
 Fax: 076(224)9550
 URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>